



ミシン系の製造販売業として1947年に創業以来、
縫製業界の発展に貢献。
そして生産の多くが海外にシフトした昨今でも、
オリジナル商品開発に力を注いでいる株式会社葛西。
時代のニーズに合った商品開発、
そして国内生産にこだわり、
その徹底したものづくりは世界からも注目されている。



TOKYO LEATHER FAIR

Interview,7

株式会社葛西 葛西 範久



大阪でミシン系の製造販売業として誕生し、
現在まで、どのような変化がありましたか？

ミシン系の製造を行ってきましたが、やはり時代と共にニーズは変わりました。そこで、自分たちで新しいことをやろうと考え、オリジナルテープの開発を始めました。ミシン系で培った繊維の知識を生かし、今までにない感覚のテープを発信できた事で、新しい市場を作り出すことが出来たと思います。

日本だけではなく、海外からも大変注目されていらっしゃるようです。

昨年、リネアペッレに出展した際、世界トップのラグジュアリーブランドの方々からも好評を頂き、手応えを感じました。“MADE IN JAPAN”を世界に発信したいと取組み始めてから8年目にして、ようやく世界で通用する商品が完成したと実感しました。今年9月のリネアペッレでも新作を発表する予定です。

海外で発信して感じたことはありますか？

海外では、素材にこだわり、自分たちの製品の価値を高めていこうという人々に出会いました。日本国内でも、こだわったもの作りをされている方がたくさんいらっしゃると思いますので、その人たちに向け発信していくことが差別化に繋がるのではないかと感じています。



今後、ジャパノクオリティを発信していくために必要なことは何でしょうか？

当たり前にあるものを、わざわざ日本から買う必要はありません。しっかりと市場を把握して、自社の強みを理解し、そこを深掘りしていく。そして会社が独自性を持った存在であると認知してもらう事が大切だと思います。